



総合図書館所蔵の貴重図書

目次

学生にススめるこの1冊 P.1

阪大図書館の宝物公開 P.2-3

本の「トリセツ」 P.4-5

大阪大学附属図書館の古典籍の

今・そしてこれから P.6-7

NEWS 図書館からのお知らせ P.8-10

「旭江文庫」の「発見」 P.11

図書室・資料室めぐり P.12

キャリア支援
図書コーナー

総合図書館のキャリア支援図書コーナーは2011年8月に学生部（学生・キャリア支援課）、教育・情報室との協力でA棟2階に新設されました。

いわゆる就活本だけでなく、就活中の皆さん以外にも参考になる資料もあります。例えば、キャリア形成、ライフデザインに関する資料や、コミュニケーション方法についての資料などです。どうぞご利用ください。

こちらも
オススメ！

照屋華子、岡田恵子著
ロジカル・シンキング：
論理的な思考と構成のスキル

東洋経済新報社刊、2001年

配架：総合図学習用図書

理工学図東館1F図書

生命図開架図書

請求記号：336.49/TER

学生にススめるこの1冊

＜論理的思考力・表現力が鍛えられ、就職活動にも役立つ1冊＞

津田久資、下川美奈著

ロジカル面接術（2013年基本編）

わっく刊、2011年

配架：総合図・キャリア支援図書コーナー

請求記号：377.9/TSU/2013

書名だけ見ると、就活本かと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。比較的手軽に論理的思考力・表現力を鍛えることができ、就職活動にも役立つ、便利な1冊です。

まず、社会人として重要な能力に「コミュニケーション力」があげられます。多様な人間が一緒に働く職場では大事なものの一つです。ところが、経済産業省のある調査によると、企業が学生に対し「コミュニケーション力の不足」を感じる一方、学生は「自分はすでに身に付けている」と考える傾向があるそうです。

では、「コミュニケーション力」をどのように伸ばせるのでしょうか。答えは簡単ではありませんが、論理的思考力・表現力を磨くことは一つの有効な手段になるはずです。つじつまの合う考え方ができて、結論から話す技術を身に付けておけば、きっと大きな前進になります。

本書では「コミュニケーション力」として、次の4つをあげています。すなわち、①理解力 ②察知力 ③言語化力（論理的構成力） ④話術（話す時間、声）です。

ここで注目したいのは「③言語化力（論理的構成力）」です。本書では、自己PRの例として、「〇△のバイトをやっていました」から始まるものと、「〇〇の能力に長けていると自負しております」から始まるものが比較されています。後者の方が、特に短い時間の場面では、分かりやすい手段であり、論理的な表現力がある人だと見られるでしょう。これは自己PRだけでなく、研究会や会議等での発表・発言の場合も同様です。

論理的な表現力は、日々の学生生活の中で意識的に訓練していく必要があります。日本語は一般的に論理的な言葉でないとも言われますし、日本語で論理的に話す練習の機会もそれほど多くはないかもしれません。それだけに「自分の考えを自分の言葉で伝える」ことを身に付けるには、意識的に何かをする必要があるということを、本学の学生の皆さんには考えてほしいと感じます。

論理的な表現力には、論理的な思考も不可欠です。自分の考えを持つことも大事です。本書はそれらについて短く、かつ分かりやすく書いたものです。最初の1冊としてはオススメです。

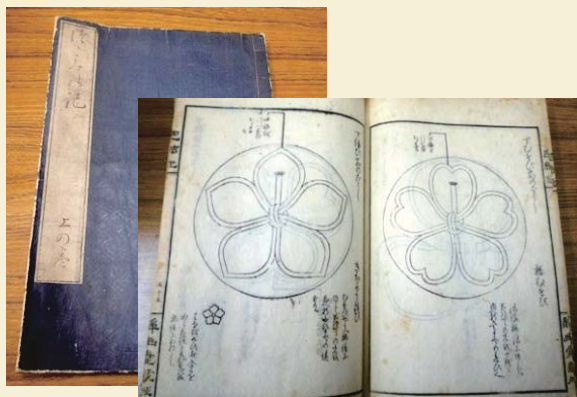
より多くを知りたい方は、左の欄外にある関連図書などもご参照ください。意識して積み上げることで、学生や社会人としての能力が向上していくはずですよ。がんばろう、阪大生！

利用支援課
久保山健

阪★図書館の宝物公開

大阪大学附属図書館には約400万冊の資料がありますが、その中には普段目にする機会のない珍しい資料が数多くあります。ここではその一部、各館自慢の宝物を公開します！

理工学図書館



安齋伊勢先生編輯；輪池屋代先生校閲『包結記』
配架場所：理工学図書館（別置）

水引、風呂敷など日本には「結ぶ」「包む」文化が深く根付いています。平安時代には糸で花形を作る「花結び」という装飾法が発達し、何百種類もありました。しかし時が経つにつれ伝えられないものもあったため、室町時代に將軍の命を受けた伊勢氏が結び物の法を定めました。

この伊勢氏の末裔、伊勢貞丈が包と結の二法についてまとめた解説書が「包結記」です。今日では版本の入手がむずかしい貴重な資料です。天保11年（1840年）発行です。

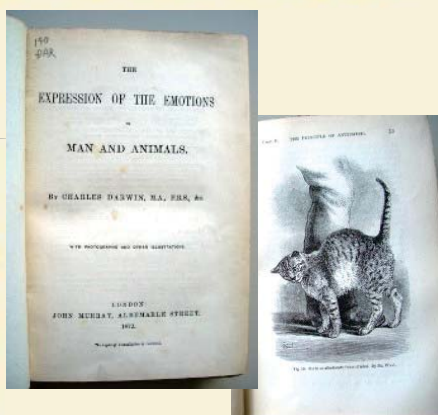


『堤防橋梁積方大概』
配架場所：理工学図書館（別置）

旧徳川幕府普請方が保有していた土木技術を、そのまま集録している資料です。水の勢いを抑え、流れの方向を変えるため河川に設ける「牛」と呼ばれる水制用具や、材木の継ぎ方などが図をまじえて紹介されており、江戸時代の土木技術の水準の高さを知ることができます。明治4年（1871年）に政府の内務省土木寮が発行したものです。

※ご紹介した資料は別置図書です。
ご利用の際は理工学図書館サービスカウンターへご相談下さい。
（平日 9:00 - 17:00）

生命科学図書館



Charles Darwin, *The expression of the emotions in man and animals*

チャールズ・ダーウィン『人間及び動物の表情』

配架場所：生命図貴重図書 請求記号：140/DAR

※ご利用の際は生命科学図書館参考調査カウンターへ
ご相談下さい。（平日 9:00 - 19:00）

ダーウィンの進化論4部作の一つの初版本です（1872年発行）。人間と動物の感情の表出について、動物の感情表現が進化の過程で固定されたものであり、人間の感情表現も動物に由来すると主張しています。写真を掲載した初期の書物の一つと言われています。

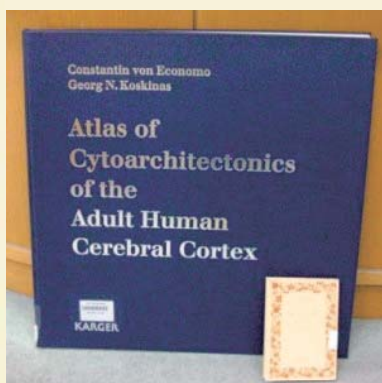


Constantin von Economo and Georg N. Koskinas,
Atlas of cytoarchitectonics of the adult human cerebral cortex
『ヒト成人大脳皮質の細胞構築学アトラス』

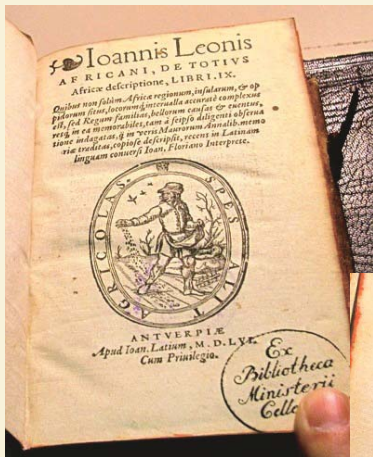
配架場所：生命図参考 請求記号：491.17/ECO ※禁帯出

生命科学図書館最大級、49cm×49cmの大型本です。一緒に写っている文庫本と比較すると、その大きさがよく分かります。

脳神経科学発展の礎ともなった医学史上の記念碑的アトラスで、1925年に100部限定で刊行されたドイツ語版の英語復刻版（2008年発行）です。112枚もの顕微鏡写真が掲載されています。



外国学図書館



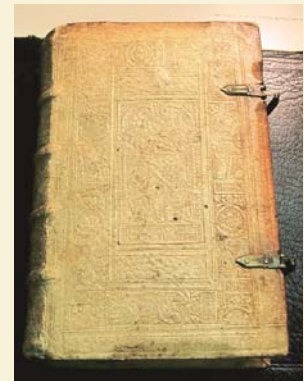
Leo Africanus, *De totius Africae descriptione, libri IX*

レオ・アフリカヌス『アフリカ誌』

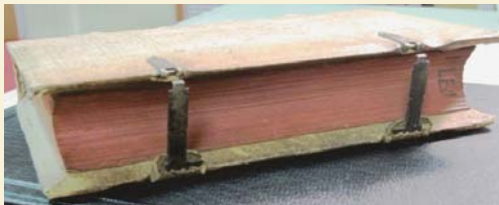
配架場所：外国図貴重図書 請求記号：294/136

著者（本名ハッサン・アル=ワッザン）はメッカ巡礼の帰途、捕虜となり法王レオ10世に奴隷として贈与されましたが、厚遇されラテン語とカトリックの教義を学びました。彼の西アフリカの見聞記が『アフリカ誌』として1526年にイタリアで出版され、その後400年にわたり貴重な文献となりました。

こちらは1556年発行のラテン語版初版です。



木の表紙の革装本で、革は豚革
革には型押しの装飾がされています



横から見た図
2つの留め具で固定されています

※掲載の資料は外国学図書館貴重図書です。

ご利用を希望される方は貴重図書利用願をご記入の上、
外国学図書館までお持ち下さい。

※手続には1週間程度かかることがあります。

総合図書館



Nicolas de Fer, *La partie orientale de l'Asie*

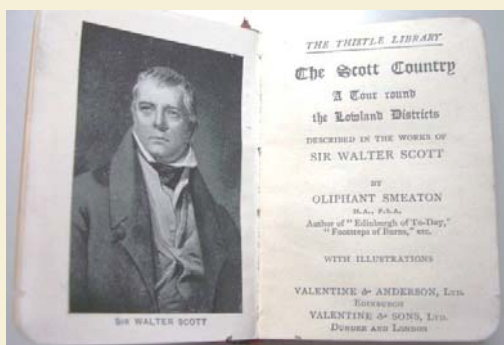
ニコラス・ドゥ・フェール『アジア東部図』

1705年 銅版筆彩 28.9×41.5cm

作者ドゥ・フェール（1646-1720）はフランスの技師・地図作者で、王室地理学者をつとめた人物です。この地図では蝦夷がアジア大陸と地続きの半島として描かれており、“Matsmey”（松前）、“Acquis”（厚岸）などの地名が記入されています。

※こちらの資料は「西洋古版アジア地図」コレクションの一つです。

資料は電子化され、附属図書館のサイトで公開されています。



Oliphant Smeaton, *The Scott country : a tour round the lowland districts*
オリファント・スミートン『スコット・カントリー』

配架場所：総合図竹友（貴重） 請求記号：930.268/SME

※ご利用の際は事前に総合図書館メインカウンターへご相談下さい。
（平日 9:00 - 17:00）

手のひらサイズ（86mm×63mm）、267ページの小さな本です。詩人ウォルター・スコットの作品に登場するローランド地方を紹介しています。シリーズ名の「thistle」とはスコットランドの国花、アザミのことです。

装丁もスコットランドらしくタータン柄です。



本の取扱い説明書

第1回 ～ 基本の「キ」 ～

利用支援課
小村 愛美



補修のようす



図書館での補修のようす
・革装本の劣化保護（上）
・カイルラッパーという簡易保存容器の作成（下）

補修の道具



本のケアには、こんな道具が必要なんです（写真）

左から順に

- ①乳鉢
デンプン糊を練る
- ②ガラス鉢
糊を使う時の容器に
- ③和紙
破れの補強や表紙のつなぎに
- ④グラシン紙
革表紙の本のカバーに
- ⑤ヘラ
和紙の押さえや保存箱作りに
- ⑥スパチュラ
細いヘラ。元は化学実験器具
- ⑦カッターナイフ
割れた接着剤を削る
- ⑧筆
糊用・ボンド用など数本
- ⑨編み棒
つなぎ部への糊入れに
- ⑩定規
30cm、金属製が便利
- ⑪製本用ボンド
紙に安全な成分

道具の下のは紙は中性紙で、クータや表紙の欠損に使います。

図書館でしている本のケア

図書館のカウンターには、傷んだ本が毎日届きます。その数1年間で300冊以上！今回は、総合図書館で行っているそうした本へのケアをご紹介します。

ケア①簡易補修

ページが破れた、背表紙が取れた・・・そんな軽い破損は、職員の手で補修をします。4人の担当者が手の空いた時間に少しずつ治していて、左写真のような様々な道具を使います。粘着テープや接着剤は補修には向かないので、デンプン糊を手作りし、和紙を使って丁寧に行います。これ以上傷まないよう、保存用の箱に納めることもあります。何ヶ所も傷んだ本には数時間かかることもあり、一度に多くはできないのが悩みのタネです。お互いに教えあったり、研修などでスキルを磨いています。

ケア②補充購入

傷みの激しい本は、職員の手には負えません。本の綴じ糸が切れたり、背

表紙が割れてバラバラになったものは、新しいものを購入します。全く同じ本か新版の在庫を探し、書店や出版社に発注しています。

ケア③修理製本

職員の手には負えない、でも出版社の在庫もない。そんな時は専門業者に修理製本を依頼します。本を解体し、もう一度綴じ直して新しい表紙をつける方法です。元の表紙は無くなってしまっているので、表紙も含めて残したい本には使えませんが、ボロボロだった本が丈夫になって蘇ります。

以上の3つを、それぞれの本に合わせて使い分けます。貸出回数の多い本は補充購入や修理製本に出して、より丈夫なものをより長く使えるようにし、逆に古い本や貸出回数の少ないものは、簡易補修を施すに止めてオリジナルを保つようにします。代わりがきく本なのか、あと何年図書館に保存したいのか、さまざまな判断基準をもとにケア方法を決定します。

本の構造と弱点

長持ちさせるコツ

長持ちする取扱い



両隣の本を押し、
背表紙をつかむ



上から手を入れ、
本を押し出す

こういうのはヤメテ！

傷みやすい取扱い



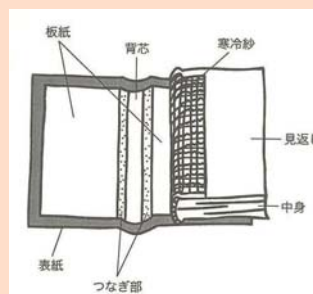
背表紙に指を引っかけて取り出す



コピー機に押しつける



ギュッと開いて置く



本の構造と名称

本の弱点は、“表紙と本文のつなぎ目”です。図のように、本の表紙と本文はわずか5mmの「つなぎ部」と表紙・裏表紙に貼った「見返し」のみでつながっています。この「つなぎ部」が最もよく動き本文の重さもかかるため、一番壊れやすい箇所です。

傷んだ本の治し方 —よくある補修—



1ページだけ外れたものは、外れたページの背表紙側 2～3 mm にデンプン糊を塗り、元の場所へ差し込みます。

背表紙が外れた本は、クータという部品をクッション兼補強材として中に入れ、背表紙を元通りに貼り戻します。必要なら上から和紙などで覆います。



ついやってしまうこんなコト

セロテープやメンディングテープで補修すると、数年後には変色し、取れなくなってしまいます。借りた本が破れたり壊れたりしたら、そのまま図書館カウンターへ！



こんな時は？ 「雨や飲み物で濡れてしまった！」

軽く水気を拭いて1ページごとに紙を挟み、水気を吸い取りながら、重石を乗せて乾かします。家でも使えるテクニックです。



こぼれ話 フィルムコート of いいトコあかんトコ

透明フィルムでコーティングしている本。書名が分かりやすく、カバーも保護できますが、フィルムの寿命は20～30年ほど。永年保存したい本には向きません。フィルムがない方が補修もやすく、また写真のように、別冊も丸ごと包んでしまうとフィルムに圧迫されて歪む場合があります。コーティングに向く本、向かない本があるのです。



中で表紙が折れてしまうことも

本の虫、のおはなし。本の虫と聞けば、普通は、いつでもどこでもむさぼるように本を読んでいる人間を思い浮かべるだろう。しかし、この見開き特集を書いた小村さんのような人にとって、本の虫とは文字通り本の虫、つまり本を食べてしまう害虫なのである。

東京文化財研究所編『文化財害虫事典』は、博物館や図書館で資料保存に携わる人のバイブルである。分量にして200頁、130種の害虫について、どの材質に害があるか、どんな害をもたらすか、予防退治の方法などが紹介されている。大きな写真やリアルなイラストも載っているので、虫が苦手な方は不用意にページを開かないのが賢明だろう。

有用な事典だが、虫の種類が多く、事典を見るだけでは有効な対策を覚えられない。そこで、本の虫とその予防退治を同時に、楽しみながら学べるゲームを勝手に考えてみた。カードゲーム「本の虫—Save Your Book s!!—」だ。

2人プレイで、1人（虫界）に本の虫カード、もう1人（人間界）に予防退治カードがランダムに配られる。本を食い破ろうとする虫と、本を守ろうとする人間とが戦う。

このゲーム、虫側は力技で押し切るのみで、人間側に多くの知識が求められる仕様だ。人間「ぬー、ヒラタチャタテにフルホンシバンムシとは厄介だ。喰らえ脱酸素剤!! しぶといやつめ、これでどうだ、酸化プロピレーン!!」虫「ギュ、ギュー!!」

現実がこのゲームのようにまくいくとは限らない。しかし、本の虫は厄介だ、退治にこんなコストがかかるなら普段から掃除しないと、などと思ってもらえれば、このゲームの役目は果たされる。さあ、今日もみんな Save Your Books!!

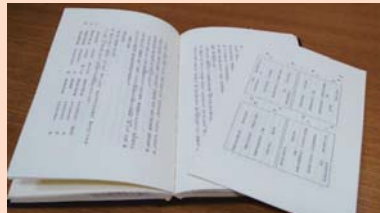
よくある傷み方

本はいつかは壊れるもの。でも取扱いによってその寿命は大きく変わります。取扱いが荒いと、写真の本たちのようになってしまう。

本が数年で壊れるか、数十年もつかはあなた次第。長持ちのコツを、少しだけ試してみませんか？



背表紙に指を引っかけたもの



ページの外れ



背表紙の外れ



表紙の外れ



背の接着剤が割れたもの

大阪大学附属図書館の 古典籍の今・そしてこれから

— 2つの講習会に参加して —

学術情報整備室

野原 亜希



阪大図書館の コレクション 紹介 ①

<上方文芸の息吹に触れる①>

赤木文庫

『室町時代物語集』『古浄瑠璃正本集』『説経節正本集』『琉球資料叢書』などを刊行し、古典籍の本文校訂に大きく貢献した国文学者の横山重氏は、著作『書物搜索』でも知られるように、無類の蔵書家、愛書家であり、氏の蔵書「赤木文庫」は貴重な善本が揃った価値の高いものとして世に知られていました。

当館では、赤木文庫のうち、江戸初期から中期にかけての古浄瑠璃（竹本義太夫、近松門左衛門以前の浄瑠璃）および説経（鎌倉時代末に興った口承芸能）の正本など96点を購入し、さらに横山氏に師事した信多純一氏（本学名誉教授）から赤木文庫に因んだ古浄瑠璃正本4点の寄贈を受け、合わせて100点、114冊を所蔵しています。2005年に全点電子化し、当館Webサイトで公開していますので、どうぞご覧ください。

赤木文庫についてもっと知りたい方は下記の図書をご参照下さい。

『書物搜索』上・下
横山重著、角川書店、1979
配架：外国学図書館3階開架
請求記号：910.4/27

『赤木文庫古浄瑠璃稀本集：影印と解題』
信多純一編、八木書店、1995
所在：総合図書館書庫
請求記号：912.4/SHI
配架：外国学図書館書庫
請求記号：912/79

はじめに

大阪大学附属図書館では館内所蔵資料のうち、約84%にあたる開架・書庫の資料を蔵書検索（OPAC）で検索することができます。残り16%の資料というのは主に貴重資料・個人文庫・和古書・漢籍等の特殊なコレクションで、古典籍が多く含まれており、目録データの登録が待たれています。

当館では平成23年度より本格的に古典籍の目録データ登録を開始し、総合図書館書庫6階漢籍資料と笹野文庫（近松門左衛門作の浄瑠璃本を中心としたコレクション）を手がけています。

そのようななか、漢籍担当職員講習会（初級・中級）と日本古典籍講習会に参加させていただきましたので、その報告を通して、当館の古典籍の状況をご紹介します。

1. 漢籍担当職員講習会

京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター主催、初級：平成23年10月3日～7日、中級：同11月7日～11日開催

初級・中級とも5日間の日程で、漢籍整理実習にも4日間ずつ午後の時間があてられ充実した内容でした。

初級では漢籍の目録を取るための知識（講義内容：「漢籍とは何か」「カードの取り方—漢籍登録の実践—」「工具書について」「和刻本について」「朝鮮本について」）を学びました。現物を手にしながらの実習では、京都大学人文科学研究所所属の5名の先生方が補助としてついてくださり、専門の研究者に直接質問できる大変貴重な環境で訓練させていただきました。

一方、中級では漢籍の分類法である四部分類法を主に学びました。四部分類法は中国人の思想の歴史であり、価値判断の基準でもあります。個人的には分類法について知識を深めたかったので、細部を学ぶことができて大変満足でした。

総合図書館でも書庫6階の漢籍資料（約68,000冊）には四部分類法を使用し、次のように記号化しています。経部、史部、子部、集部に叢書部を加え、順に「K1」「K2」「K3」「K4」「K5」とし、さらにそれに続く類属目を上位から2桁の数字に当てます。例えば「経部-禮類-周禮之属-正文」は「K1-05-01-01」となります。

また、全国漢籍データベースについての講義（「全国漢籍データベースの設計とWWWでの運用」「全国漢籍データベースとNACSIS-CATデータベースとの比較」）もありました。全国漢籍データベースは2001年より運用が開始され、参加機関数は69機関、登録件数は約81万レコード（2011年3月現在）となっています。当館所蔵資料では、外国学図書館の貴重書である石濱文庫の漢籍約1万点をこの全国漢籍データベースに登録済みですので、検索が可能です。

昨年度より新しく開講された「漢籍関連サイトの利用について」（京都大学文学研究科閲覧掛大西賢人氏）も大変興味深く拝聴させていただきました。中国では漢籍の全文テキスト化、全文画像化が進んでおり、無料で閲覧できるものも多く存在しています。このような有益なサイトを利用者の皆さんにもご紹介できればと考えております。

2. 日本古典籍講習会

国文学研究資料館・国立国会図書館主催、平成24年1月18日～20日開催

初日、2日目は国文学研究資料館で、日本古典籍に関する講義（講義内容：「日本古典籍の基礎知識と問題点」「近世の出版と流通」「写本について」「くずし字の読み方」「蔵書印の見方・読み方—書物の伝来—」）を学び、和古書目録作成実習を行いました。

和古書に特徴的なのがくずし字の表記であり、その解読には大変苦労します。今回

はかなの基本となる変体仮名の字母について1つずつ詳しく見ていきました。また蔵書印の読み方として、江戸時代の代表的な蔵書家、知識人の蔵書印を見ていく中で、篆字についても基本的なことを学びました。蔵書印は書物の来歴を知る上で大変重要な手がかりであり、古典籍の目録では印記(蔵書印の内容)を記述する必要があります。実は漢籍では蔵書印以外で目録に重要な鈔刻(出版事項)が封面の裏に篆字で記されている事が多く、漢文の他に篆字の解読も必要になります。ですから今回の日本古典籍講習会での講義は、漢籍の整理にも有効な内容でもありました。

国文学研究資料館が公開しているデータベースである日本古典籍総合目録は『国書総目録』と『古典籍総合目録』の目録データに加え、資料館所蔵の和古書目録データ・マイクロ資料目録データを収録しています。当館所蔵資料では、総合図書館の貴重書、赤木文庫(古浄瑠璃コレクション)と、同じく総合図書館の『大阪大学附属図書館蔵和古書目録第一稿』(1989)に収録されている約600冊の和古書を検索することができます。なおこの和古書目録は第二稿(2009)で163冊が追加収録されており、第一稿とともに大阪大学学術情報庫OUKAで電子版(全文画像)を見ることができます。

3日目は国立国会図書館東京本館に場を移し、国立国会図書館における書誌データ作成の実際、古典籍資料の電子化についての講義と、資料保存の考え方・綴じの実習がありました。

国立国会図書館では平成23年10月にホームページをリニューアルしましたが、それに先駆けて平成22年度に1万1千タイトル、約5万8千冊の古典籍の大規模デジタル化を行いました。新ホームページでは古典籍の電子画像を数多く見られるようになったことに加え、その検索も詳細に設定できるようになり、例えば古典籍のうち、和刻本(朝鮮本、安南本)のみを検索、同様に刊本(写本)のみを検索、また古活字版や拓本などに絞って検索をすることもできます。

実習の方ではこよりと絹糸を使った和装

本の綴じと、中性紙で簡易帙の作成を行いました。総合図書館では、書庫6階漢籍資料を中心に、職員が2種類の中性紙を使って簡易帙を作成し、糸切れの綴じを含む簡易補修を手がけています。

3. 大阪大学附属図書館の古典籍はこれから

これまでご紹介してきました外部のデータベースで検索できる当館の古典籍は、実はOPACには未登録のため、残念ながら検索することができません。これらのデータを登録し、検索できるようにするのが現在の私の業務である遡及入力です。来年度以降の古典籍の遡及入力計画として大部には漢籍の懷徳堂文庫約5万点などが控えています。現在、懷徳堂文庫は冊子体目録『懷徳堂文庫圖書目録』(大阪大学文学部編、1976)でのみ検索ができ、その電子版(全文画像)が大阪大学文学部中国哲学研究室のデータベース「WEB懷徳堂」で公開されています。

古典籍はその内容を解読するのが現代書に比べて困難であること、また資料そのものが時代を経て劣化しているだけでなく、虫損やカビ害、不適切な取り扱いや保存手当てなどによる破損も多く、補修作業が必要なこと、現在の保存環境が将来にわたり適切であるかどうかを点検することなど、古典籍に関する様々な分野の専門知識を必要とします。われわれ図書館職員には、解読のための知識や古典籍の取扱い、保存手当ての方法などを学ぶために、講習会が用意されていますが、開催数は少なく、募集人数が限られている一方で、参加希望者は国内外の機関に多数存在し、参加できる機会を待っているのが現状です。

古典籍に関する知識や技術は職員個人に依るものではなく、古典籍を所蔵する図書館として培っていき、提供していくことが必要だと思います。時宜にかなない、講習会への参加が許された者の責務として、今回の講習会で得られたものを今後の業務の中でより一層深め、集積し、館内へ周知していくとともに、利用者の皆さんへのサービスに還元していくことに日々励みたいと思います。

阪大図書館のコレクション紹介 ②

須田国太郎 能・狂言デッサン

日本を代表する洋画家、須田国太郎画伯(1891~1961)が描かれた能・狂言デッサン、約5,000枚のコレクションです。

描かれた時期は、1927年から1961年の間。対象は、主として京都や大阪の能楽堂などにおける能や狂言の上演舞台でした。本業である洋画制作のかたわらに描かれました。

デッサンそのものの美術的価値だけでなく、近代、とりわけ昭和前期の能楽史の資料としても貴重なものです。

2001年にご子息の須田寛氏(当時、JR東海会長)から本学に寄贈されました。これは附属図書館副館長であった天野文雄文学研究科教授(当時)が膨大なデッサンの調査・整理に尽力したこと由来しています。そして、当館で2005年度に電子化、公開しました。

当館Webサイトの「電子展示」からご覧いただけます。拡大画像では、生き生きとした筆跡もお楽しみいただけます。



『安宅』より。
源義経の逃避行、安宅の関での逸話に基づく。

NEWS☆図書館からのお知らせ

『映画字幕翻訳講座2011 in 大阪大学箕面キャンパス』[外国学図]

◆外国学図書館は、大阪アジア映画祭のイベントの一つ「映画字幕翻訳講座 in 箕面キャンパス」を共催しました。◆言語文化研究科の古川裕教授の司会のもと、講師に中国映画字幕翻訳家の鈴木真理子さんと、映画字幕制作者の堀三郎さんをお招きし、映画字幕翻訳の世界を講演していただきました。◆字幕翻訳は、通常の記事翻訳とは違い「映像がある」「音声がある」「読み直しがきかない」というのが特徴です。その特徴から、文字を訳すだけではなく「要約翻訳」や「超訳」が求められます。講師の方からは、翻訳する度に字幕翻訳の難しさを感じ「その選択でよかったのか」と悩むというお話もありました。◆当日は、実際にスクリーンを見て字幕翻訳をおこなうワークショップもあり、162名もの参加者は、3時間以上の講座にもかかわらず熱心に受講されました。「来年も開催してほしい」「他の言語でも開催してほしい」、特に学生からは「是非、授業で取り入れてほしい」といった声も多数あがり、大好評の内に終了しました。

『図“笑”館寄席』

◆附属図書館では年忘れ企画として『図“笑”館寄席』と銘打った落語会を12月19日（火）に開催しました。第1部では社会人3名と落語研究部所属の学生2名による落語の競演、第2部では落語研究部のメンバーによる大喜利、と盛りだくさんの2時間。いずれ劣らぬ熱演に、聴衆からは、「自分も演じてみたくなった」など、好意的な評判が寄せられたほか、「定期的に開催してほしい」と次回を期待する声も聞かれました。



企画展特別企画『竹鶴が求めたウィスキー その魅力と愉しみ方』

◆附属図書館では、企画展『国産ウィスキーの父 竹鶴政孝 〜はじまりの場所〜』（会期：11月1日～29日）の特別企画として、11月6日（日）に『ミニレクチャー 竹鶴が求めたウィスキー その魅力と愉しみ方』を、総合図書館内図書館ホールで開催しました。◆前半の講演ではジャパニーズウィスキーの祖、竹鶴政孝のパイオニア精神溢れる足跡を辿り、後半ではその「竹鶴の求めた味」をテイスティング。60名超の来場者は、竹鶴の情熱と「芳醇な香り」にしばし酔いしれていました。

論文の書き方/文献の読み方 プチ・ゼミナール [総合図]

◆昨年に引き続き今年も12月にプチゼミ（全4回）を開催。今年は「補講」も実施し、のべ40名以上が参加。参加者は学部3年～修士1年が多く、留学生が約3分の1でした。◆講義内容だけでなく、ペアワークで自分の企画書について話をするという点でも有用さを感じられたようです。◆アンケートの中では「ロジカル・スピーキング」「ディスカッションの練習」への期待、「また開催してほしい」など、改善・展開のヒントとなる意見もありました。引き続き実施していきたいと考えています。

「テーマ別調べ方ガイド」シラバス指定図書コーナー横に登場[総合図]

◆総合図書館A棟2階のシラバス指定図書コーナー横に「テーマ別調べ方ガイド」、通称「Paste（ばすて）」が登場。役立つ図書やレポート用の資料などを掲載しています。◆「Paste（ばすて）」とは、「ぱっと分かって、すっと頭に入る、テーマ別調べ方ガイド」。みなさまの学習をサポートするために総合図書館ティーチング・アシスタント（TA）が作成しました。◆「線形代数」「物理数学」「若者の雇用問題」など、いくつかのテーマがあります。どうぞ活用ください。



BOOKPLUS, MAGAZINEPLUS の提供終了（2012年3月末）

◆2012年3月末をもって、データベース BOOKPLUS 及びMAGAZINEPLUS は提供終了となります。ご利用の皆様にはご不便をおかけしますが、それぞれ以下のデータベース、検索サイト等にて代替いただきますようお願いいたします。◆BOOKPLUSの代わりには、Webcat PlusやNDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索）、また目次情報を見るには出版社・書店等のサイトなどもあわせてご利用ください。◆MAGAZINEPLUSの代わりには雑誌記事索引集成データベースや、CiNii Articlesが有効です。

理工系雑誌・白書年鑑等をA棟5階に移動[総合図]

◆C棟2階の理工系雑誌、A棟1階の白書年鑑、書庫棟1階の新聞縮刷版、新聞復刻版などの逐次刊行物をA棟5階の雑誌エリアに集約します。これにより、全分野の学術雑誌を同じ場所で学際的に活用することができるようになります。◆これまでと置き場所が変わりますので、利用される際にはご注意ください。

ラーニング・コモンズにイスを増設[総合図]

◆総合図書館のラーニング・コモンズは平日午後を中心に満席に近い状態になることもありますが、豊中学生センターの協力で、ラーニング・コモンズにキャスター付きのイスを12脚追加しました。◆共同学習の人数が多いときや、デスクトップ・パソコンを複数で利用されるときに、イスを移動して使っていただくこともできます。

『学術情報リテラシー教育担当者研修』を開催

◆附属図書館は国立情報学研究所との共催で、標記の研修を10月19日（水）～10月21日（金）の3日間、総合図書館において開催しました。2004年度以降大阪大学を会場に毎年開催しており、今年は53名が参加しました。研修では、講義、実践報告のほか、活発なグループ討議も行われ、充実した3日間となりました。

ラーニング・コモンズの愛称『るくす』に決定！[外国学図]

◆4月にオープンする外国学図書館ラーニング・コモンズの愛称が『るくす』に決定いたしました！◆『るくす』とは、外国語学部の前身である大阪外国語大学の建学の理念であり、現在の外国語学部の学部章にも刻まれている“EX ORIENTE LUX ET PAX（光と平和は東方より）”の“LUX（光）”に由来し、それを親しみやすく『るくす』としたものです。◆また『るくす』には、お互いの知識を出し合い理解しながら学んでいく「学び」「発想」の光といった意味を込めています。4月に外国学図書館に誕生する“LUX（光）の空間”をどうぞお楽しみに！

各館図書展示

◆[総合図]特設コーナーに「企画展関連特集」「Scientthrough×図書館」（2011.11～2012.2）◆[総合図]特設コーナーに「図“笑”館寄席」関連本（2011.12～2012.2）◆[総合図]特設コーナーに津波史研究者・山下文男氏の本（2011.12～2012.2）◆[理工学図]図書展示「未来のネコ型ロボットを作ろう」（2011.12～2012.2）◆[外国学図]『14冊の本棚』（第26回）「Graded Readersを知る、試す、活かす。」（2011.11～2011.12）

「わっしー」こと鷺田清一前総長は、ひとたび壇上に立てば必ず、学生をハッとさせる語りを聞かせてくれる方だった。総長に就任される半年前、学部の教員として最後に開かれた講義が忘れられない。2007年1月末、「社会のなかの人文学」の最終回である。各界の実務家をゲストスピーカーに招いた連続講義を総括するべく、鷺田先生は新しい人文学研究の在り方について、次のように語った。

これまでの人文学は、問題や困難に対して、「立ち向かう」「耐える」「乗り越える」という態度をとるよう人々に求めてきました。しかし、いつもいつも、困難に立ち向かい、耐えられるほど元気でいられるわけはありませんよね。弱っているときには、また違う人文学が必要なんじゃないか。たとえば、ねころんだり、下にすすつともぐってみたり、私たちは困難に対して全く異なる態度を取り得ます。そういう「ねころぶ人文学」「もぐる人文学」を考えています。

身体論を専攻する鷺田先生らしく、人文学の旧バージョンと新バージョンとを、人間の体の動きに喩えて対比してみた。ねころんで学問するとは一体どういうことなのか。よくわからないなりに自分で試してみたい。聞く者の頭と体の動きに直接むすびつく喩え。これが鷺田先生の語りを魅力的にしている。

鷺田先生とは違った意味で、学生をうならせる先生もいた。K先生は、ある日の講義中、目の前に座る学生にふと問いかけた。

女々しいという言葉は男にしか使わない。ならば、女々しいというのは男らしいんじゃないのかな？…どう思う？

問われた学生は、しばらく下を向いてうなっていた。



利用支援課

日高 正太郎

教員著作 寄贈の紹介

2011年11月1日～
2012年1月31日受領分

岸本忠三 (IFReC)
・千客万来：ライフサイエンスのトップリーダーと語る
・新・現代免疫物語：「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異
・現代免疫物語：花粉症や移植が教える生命の不思議

仲野徹 (生)
・なかのとおるの生命科学者の伝記を読む

松行輝昌 (学際C)
・地域社会圏主義

安田秀幸 (工)
・金属材料組織学

岡田禎之 (文)
・現代英語の等位構造
・意味と形式のはざま

鳩澤歩 (経)
・ドイツ現代史探訪

長澤裕 (基工)
・検証大震災の予言・陰謀論

中曽久雄 (法)
・ベーシックテキスト憲法第2版

古川敏明 (言文)
・消滅の危機にあるハワイ語の復権をめざして
・外国語教育学研究のフロンティア

田野村忠温 (文)
・アプリケーションソフトの応用

※敬称略、順不同



TA講習会のような

オンデマンド式ミニレクチャーの開催[総合図]

◆総合図書館では2011年11月下旬から2012年2月中旬にかけて、TA(ティーチング・アシスタント)がオンデマンド式のミニレクチャーを実施しました。◆学部生に対する学習サポートとして、WordやLaTeXの使い方など、レポート作成に役立つ内容を総合図書館ラーニング・commons内の利用支援カウンターでレクチャーしました。

◆実施プログラムは、次の7つです。

- ①レポートにも役立つWordの使い方 ～初級編～
- ②Wordの使い方 ～中級編～
- ③レポートはLaTeXで書こう！ (LaTeXの使い方 ～初級編～)
- ④LaTeXの使い方 ～中級編～
- ⑤R超入門 ～キホンのキから～
- ⑥プログラミングにおける見やすいコーディング方法
- ⑦知っているようで知らない図書館の使い方

◆実施形態など検討のうえ、来年度も学習サポートとなるミニレクチャーを実施したいと考えています。ぜひご参加ください。

TA講習会を開催[理工学図]

◆理工学図書館では年に2回TA講習会を実施しています。今年度は図書館の利用方法のガイダンスや各TAの専攻・得意分野について講習を行いました。12月のTA講習会では5日～9日の5日間に、7つのテーマで開催し合計24名が参加しました。◆講習に参加された学生の皆さんは、TAの話に真剣に耳を傾け、質疑応答の時間には盛んに発言が交わされる一幕もありました。◆理工学図書館では、今後もTAによるイベントを行いますので、是非ご活用ください。

○●テーマと内容●○

①触媒を知ろう

触媒って何？ 何かの授業で出てきたような…。自分とは全く縁のない存在だと思っているかもしれませんが、実は身近にひそんでいるのです。

現在の生活を陰で支えている触媒について詳しく紹介。日常生活にひそんでいる化学に気づけるようになる内容です。

②学部時代の過ごし方

大学での学びのゴールとは？ 今やっている科目の意義がどうにもわからない!? だから勉強が面白くない!?

学部時代の学習内容がどのように研究に結びつくのか、また英語や専門外の知識がどのように役立つのか解説。今後の学生生活をさらに充実させるために参考になる内容です。

③就職活動について

理工系学生の就職活動の流れ、企業選び、エントリーシート、面接のコツなどを、TA自身の体験を交えながら説明。

就職活動のちょっと有益な情報なども盛り込まれており、これから就職活動を始める方も、進学予定の方も聞いておけばプラスになる内容です。

④理工系の研究と学会発表

研究テーマの決め方・研究への取り組み方や論文の書き方・学会発表の種類などを解説。

これから研究を始める学生にとっては研究・発表の予習に、既に研究に取り組んでいる学生には自分の研究・発表を見直す良い機会になる内容です。

⑤TOEIC試験対策

TOEIC試験の時間内で全問答えられない!! 英語の勉強をいくら頑張っても点数が上がらない! それは、テクニックが必要だからです。

TOEIC試験だけでなく、他の試験にも通じるようなコツも紹介。就職・院試で頑張っている方に役立つ内容です。

⑥How to make a good Presentation

良いプレゼンテーションとは？ 聞く人を退屈させないプレゼンテーションスキルを身につけるには、どんなことに気を配るべきか?を英語でレクチャー。

良いプレゼンテーションの見本のような巧みな講習で、発表する際のイメージを膨らませながら講習を受けることができる内容です。

⑦博士の歩き方

博士学生と社会人・修士学生の違いや、社会から博士学生に求められるスキル、卒業後のキャリアパスなど、知られざる博士の実態を、博士後期課程に在籍しているTAが解説。

進学と就職で迷っている人へのアドバイスもあり、進路を決める上で役立つ内容です。

「旭江文庫」の「発見」

このたび、大阪大学附属図書館の蔵書に、明治末期から昭和初期にかけてダンテ研究の権威として知られた市井のダンテ学者大賀壽吉（1865 - 1937）旧蔵の図書が含まれていたことが、筆者の調査により判明した。

大賀が生前蒐集した書籍のうちダンテ関連の2,700余冊は、遺志により没後京都大学に寄贈され「旭江文庫」として附属図書館に収められているが、ダンテ関連以外の図書の消息については杳として知られていなかった。今回の「発見」は、大賀壽吉の生涯と「旭江文庫」の全体像を知る上で非常に貴重な資料となるものである。

問題の図書は、昭和24年3月31日付で設立まもない大阪帝国大学法文学部英文学講座が寄贈をうけた215冊に含まれる133冊で、蔵書票の貼付または署名・蔵書印の存在から判断するに、かつて文庫の一部を構成していたことはまず間違いない。同時に受け入れられた残る80余冊も大賀旧蔵図書の可能性があるが確たる証拠はない。なお、その80余冊のうち一部が、使用に耐えなくなったせいか既に廃棄されており、今となっては確認するすべすらないのは残念至極である。

かつて、賀川豊彦が『基督傳論争史』を著した際に、蔵書貸与の便宜を受けた恩人として吉崎彦一、加藤直士とともに、序文に大賀壽吉の名を挙げていることから想像されるように、大賀は相当な蔵書家であった。しかも単なる蒐集家ではなく読書家であった。東京から大阪へ行く汽車に偶然乗り合わせた坪内逍遙が8時間付き合わされて閉口したとのエピソードも伝わるほどの博覧強記、議論好きであった（伊達俊光『大大阪と文化』金尾文淵堂）。上記133冊の内訳を見ても、英文学・哲学・神学・歴史学・美術等多岐にわたり、大賀の知的関心の広さをうかがい知ることができよう。

「旭江文庫」が本邦最大のダンテ書籍の集積にして、個人の蒐集にかかるとしては世界的にも他に類を見ない規模と質を誇るものであることは、生前からよく人の知るところで、『詩聖ダンテ』を著した上田敏博士も屢々大賀宅の書庫を訪れたと伝えられる。上田以外にもその恩恵を受けた人物は数多く、特に山川丙三郎は『神曲』訳完成にあたり物心両面で大賀の助力を受けていた。そのことは、残された書簡から容易に辿ることができる。また、英文学者壽岳文章が晩年を『神曲』の翻訳に捧げたのも、大賀宅で見た文庫と老翁の姿ゆえであったと本

人が回顧している。この辺りのことについては参照文献を一読いただきたい。

さて、今回の「発見」の意義であるが、すでに上にも述べたように、ダンテ関連書以外の文庫の所在が確認されたということにあるのはもちろんのこと、重要なことは、これまで知られていなかった大賀の伝記的事実の一端が明らかになったことにある。

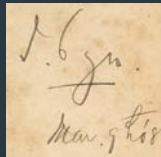
具体的には、大賀とアメリカン・ボードの女性宣教師ジュリア・ダッドレー（1840-1906）の交流を物語る資料が2点見つかったことである。1点は、大賀がダッドレーから譲り受けたと考えられる図書、もう1点はそれとは別の本に挟みこまれた、ダッドレーの名を鉛筆書きした詩の切り抜きである。署名などから判断して、いずれも明治16～17年頃に大賀の手に渡ったものと推測される。

「旭江文庫」について取り上げられる機会はあっても、蒐集者である大賀個人について語られることはこれまでほとんどなかった。それは、人前に出ることを好まなかった控えめな彼の性格に起因するものと思われる。筆者の知る限り、まとまった分量で大賀の略歴が活字となっているのは、大正10年に警醒社書店から刊行された『信仰三十年基督者列伝』の記述と、ダンテ研究においては大賀の弟子と呼んでもよいイタリア文学者黒田正利が大賀の葬儀で朗読した「故大賀壽吉氏略歴」（『基督教世界』2768号掲載）だけである。

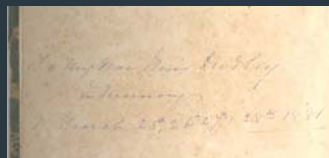
分らないことが多い大賀の生涯の中でも、明治14年に同志社英学校余科に入学し、明治16年に所定の課程を終えずに中退、その後明治33年に武田長兵衛商店に招かれるまでの摂津三田・神戸時代は特に情報が少ない。上述の黒田による略歴では、いくつかの職業を転々としたことがごく簡単に触れられている程度で、筆者はそれを跡づける資料を未だに見出せていない。その意味で、今回「発見」した資料は、摂津三田時代の痕跡を示すものとして非常に大きな価値がある。

最後に、件の図書がわが大阪大学に蔵されることになった経緯については、大賀と同じ同志社の神学出身で上田敏の高弟である竹友藻風（昭和23～29年、英文学講座教授）の関与も大いに考えられるが、あくまで憶測の域を出ない。今後とも調査を続けたいと考えている。

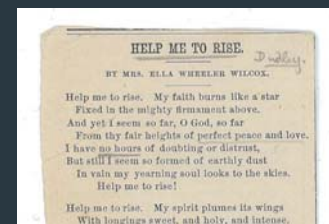
図書館企画課
赤井規晃



上から、蔵書票、柳宗悦のデザインによるEx Libris、大賀壽吉の署名、「旭江文庫」蔵書印。いずれも、今回見つかった133冊の本から。



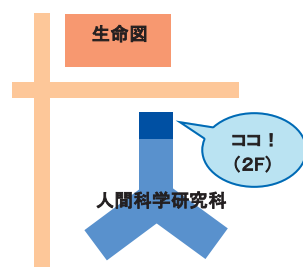
判読しづらいが、ダッドレーへの献辞がとびらに記されている（上）。標題紙には、大賀がダッドレーから受け取ったことを示す署名がある（下）。（A・K・H・ボイド著『都会での余暇』より）



詩の切り抜き。
詩は、Ella Wheeler Wilcoxの1884年の作品“Help me to rise”。一部詩句に下線が引かれ、タイトル横には「Dudley」と記されている。これがはさみ込まれていた本の見返しには、“Presented Feb 26th 83”と読める。

参考文献
・赤井規晃「ダンテ研究への多大な貢献」『紅萌』京都大学、6号、2004年、21-22頁
・下館和己「山川ダンテを探して」『創設者の事績を通してみる東北学院大学の建学の精神』2010年、87-94頁

図書室・資料室めぐり 人間科学研究科図書室



人間科学研究科図書室は、吹田キャンパスの人間科学研究科の2階、“人”の字の頂点に当たる部分にあり、どなたでも利用可能です。バッグや袋は入ってすぐのロッカーに預けます。奥にある階段を降りると、3層にわたって図書と雑誌が並んでいます。(1F: 図書、積層1F: 図書と和雑誌、積層2F: 洋雑誌)



人間科学研究科図書室の資料

人間科学研究科の学際的な性質を受けて、図書室の所蔵する資料は幅広い分野にわたっています。心理学・社会学・教育学・人類学・現代哲学といった中心分野に加えて、ボランティア人間科学・グローバル社会論・リスク人間科学・開発人間科学・人間の安全保障研究といった分野の資料も充実しています。林立する書架の間をめぐると、『サルを見て人間本性を探る』『菊とポケモン』『路上観察学入門』……「こんな本もある!」という発見が尽きません。国内では他に所蔵している図書館がほとんどない資料も数多く、他大学からの貸出依頼も来る

ほどですが、そんな資料を誰もが自由に手にとって閲覧できるのも魅力です。自分の目と手で本を探す楽しみを感じられる図書室ですが、「取り寄せサービス」でお近くの図書館・室に資料を取り寄せることも可能です。

カウンターでのサービス

カウンターでは、資料の探し方や文献の取り寄せについて相談でき、OPACでは検索できない古い資料や入手の難しい文献などについての問い合わせが寄せられます。

人間科学研究科の研究室との連携も強く、研究室にしかない貴重な資料について、借用の仲介も行っています(「取り寄せサービス」でも申し込めます)。



分野の枠を越えた多彩な資料の中には、人間科学研究科の方はもちろん、他部局の方の研究にも役に立つものがたくさんあります。3人の司書さんが笑顔で迎えてくれますので、ぜひ図書室を訪ねてみてください。

吹田地区図書館サービス課
山本侑子(取材・文)

人間科学研究科図書室

開室時間: 平日 9:00-17:00

閉室日: 土日祝日・毎月1日(土日に当たる場合は翌日)・年末年始

Tel: 06-6879-8015

Webサイト:

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/huzoku/tosyo.html>

VOL.45 NO.3 通巻178号

2012年3月1日 発行

編集: 大阪大学附属図書館

担当: 赤井規晃、上原恵美、久保山健、

坂本祐一、山本侑子、塩出郁、澁谷あずさ

住所: 大阪府豊中市待兼山町1-4

WEB: <http://www.library.osaka-u.ac.jp>

E-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp

twitter: @OsakaUnivLib